

生きもののシンフォニー

いのちがやくなごや

令和4年12月

38号

特集

令和4年度

なごや生物多様性センターまつり



なごや生物多様性センターまつりが10月29日に開催されました。さわやかな秋晴れのもと、来場者は生きものとの触れ合いや観察、展示などを満喫。生きもののつながりを体感する一日になりました。また、中高生がメインの「生物多様性ユースひろば」では、日頃の活動や成果を熱く語る様子も見られました。



同時開催

生物多様性
ユースひろば

CONTENTS

特集

令和4年度なごや生物多様性センターまつり P1~4

同時開催 生物多様性ユースひろば

TOPICS	なごや生きものの一斉調査2022 ～陸貝編～	P5
活動紹介	名古屋経済大学市邨中学校・高等学校(科学研究部)	P6
掲示板	令和5年度 なごや生物多様性保全活動協議会助成金 助成団体募集	P6



なごや生物多様性センターまつり

4年ぶりに現地で開催されたセンターまつり。36の団体らがブース出展でワークショップなどを催しました。参加者にとって生きものとのつながりをたっぷり感じるイベントとなりました。

なごや生物多様性センターの出展内容



パネルや標本の展示、
外来種釣りゲーム、
ビオトープツアーを行いました。

ビオトープツアー



2022年3月に新設されたビオトープを小中学生らが探索。すでに多くの生きものが棲みついたビオトープで、ヌマガエルや秋に見られる植物の種子などを観察しました。



“守ろう地域の宝”マメナシ・シデコブシ
愛知守山自然の会



みつばちと命のサイクルから学ぶ！
～BeeHappy∞Project～
地球ハグ倶楽部



不思議なクモたち
中部蜘蛛懇談会



外来種パズル
なごや外来種を考える会



名古屋港スナメリプロジェクト
名古屋港水族館



剪定枝、刈草を原料に堆肥を製造
しています
公益財団法人名古屋緑地保全協会



音で伝える虫の言葉
名古屋昆虫同好会



ふれてみよう！つなげよう！なごやの自然
名古屋自然観察会（愛知県自然観察指導員
連絡協議会名古屋支部）



なごやのワシタカ類：どんな生き方を
しているの？どこへ渡っていくの？
名古屋市立大学生物多様性研究センター&
日本ワシタカ研究センター



みんなでやろまい！なごやの森づくり！
なごやの森づくりパートナーシップ連絡会



東山の森の田んぼの生き物たち
NPO法人なごや東山の森づくりの会



サルを知ることはヒトを知ること
公益財団法人日本モンキーセンター

なごや生きもののトーク

出演：アウトドアタレント鉄崎幹人さん



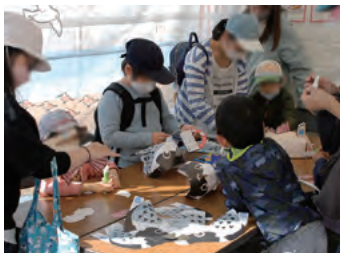
地球温暖化でクマゼミが増加!? 海がキレイになりすぎてアサリが減少!? など、指標となる生物から名古屋の自然を知ることができました。また、虫たちが生態系を支えていることや、その生態系を守る義務が人間にあること、外来種は食べて供養など、興味深いトークがたくさん登場。子どもから大人まで夢中で聴き入っていました。

藤前干潟の

これまでとこれから

ラムサール条約登録から20年の藤前干潟。渡り鳥の中継地であるこの場所は、多種多様な生きものが支え合う自然豊かなフィールドです。過去には、ごみの埋立処分場とされることを回避したものの、現在では漂着ごみや釣りごみなどが問題に…。干潟を美しく保つには、干潟に行き魅力を知ることが第一歩に。生きものとの関わりを考えるきっかけが、ここから始まります。

春秋にはクリーン大作戦も開催。藤前干潟に遊びに来て!



藤前干潟ラムサール条約登録20周年! エコパルなごやに行ってみよう!
藤前干潟ふれあい事業実行委員会/
名古屋市環境学習センター(エコパルなごや)



ラムサール条約登録20周年 藤前干潟
NPO法人藤前干潟を守る会



猪高緑地の竹で遊ぼう
名東自然倶楽部



研究室の活動紹介
四日市大学 野生動物保全学研究室



愛知県の生物多様性について
愛知県環境局環境政策部自然環境課



猫のことを考えよう
名古屋市動物愛護センター



地産地消! ごぞんじですか? なごやさい
名古屋市緑政土木局都市農業課



～広げよう「#なごやの環境」の環～ハッシュタグ投稿キャンペーン
名古屋市環境局総務課



なごや水の環ミュージアム
名古屋市環境局地域環境対策課



お絵描き収集車
名古屋市天白環境事業所



10月は食品ロス削減月間です～食品ロスを減らすために、できることから始めましょう～
2R推進実行委員会 食品ロス削減推進部会/
名古屋市環境局資源化推進室



顕微鏡で覗くミクロの世界
名古屋市環境科学調査センター



私たちの暮らしと生物多様性
名古屋市環境局環境企画課



生物多様性とともにあるなごやへなごビオ
(なごや生物多様性保全活動協議会)



ふれあい水族館

※株式会社 青空/移動動物園・アクティブ/愛知県新城市一鉄田中44番1/
展示/動東第407号/H27.2.9/R7.2.8/氷見 明日香

同時開催 生物多様性ユースひろば

中学・高校の生物部などの生徒たちが、日頃の活動を紹介する「生物多様性ユースひろば」。今年は9校が参加し、他校の生徒や他のブース出展者、来場者らと生きものを通して交流を深めました。



愛知県立愛知総合工科高等学校 化学技術部生物調査班



マイクロプラスチックは存在する!?今回、魚の解剖や砂浜からは回収できなかったものの、今後その方法を研究すると抱負を語りました。

名古屋市立向陽高等学校 科学部



ミジンコとウニの飼育観察、ランタナの花色変化を研究。観察や実験の様子を細かく丁寧にまとめ、さらには顕微鏡で観察できる体験も用意!

愛知県立佐屋高等学校 科学部



地域の水田生態系を守るため、水辺の生物を研究調査。ドジョウやスクミリンゴガイ、カメ、カマキリなど多岐に渡る内容を披露しました。

名古屋大谷高等学校 化学部



「ウシモツゴを知って!」。濃尾平野にしかない絶滅寸前の淡水魚「ウシモツゴ」の研究を通して保護の普及や啓発活動を訴えました。

名古屋経済大学市邨 中学校・高等学校 科学研究部



学校ビオトープを利用した活動を発表。観察した野鳥の絵画や生きものの豆知識が得られるカードを配るなどユニークなテーマも展示。

名古屋経済大学高蔵 高等学校・中学校 理科部



山崎川を中心にカメラを使った生物調査や、毎月の清掃活動などを実施。展示した生きものをテーマに来場者と盛り上がっていました。

南山高等・中学校男子部 理科部生物班



人と生物の世界を棲み分けする「ゾーニング」の大切さを発信。里山の模型を用いて、問題点や対策などを熱心に伝えていました。

名城大学附属高等学校 自然科学部



骨格標本や透明標本、剥製などを展示。来場者らの目をひきました。また、庄内川的环境調査も毎年コツコツと積み重ねています。

愛知県立明和高等学校 SSH部生物班



DNAストラップ作りに注目が殺到! また、高校周辺におけるタヌキの生息状況調査も発表。今後は、フン解析で個体識別に挑戦も!



ステージで 発表しました!

司会進行：鉄崎幹人さん

ユースひろば参加校のうち6校が、日頃の研究内容や成果、今後の展望などを披露。進行役の鉄崎さんとも生きもの話で盛り上がりしました。

- ・名古屋市立向陽高等学校 科学部
- ・愛知県立佐屋高校 科学部
- ・名古屋大谷高等学校 化学部
- ・名古屋経済大学市邨中学校・高等学校 科学研究部
- ・名古屋経済大学高蔵高等学校・中学校 理科部
- ・愛知県立明和高等学校 SSH部生物班

なごや生きものの一斉調査2022

陸貝編

なごや生物多様性保全活動協議会(なごビオ)主催の「なごや生きものの一斉調査」が今年も開催。10年前と同じ「陸貝」をテーマに実施しました。

陸上で生活する「陸貝」と聞いて、カタツムリを思い浮かべる方が多いのでは。陸貝は、多様な環境に適応して形態や生態が分化。ナメクジのように貝殻が退化したものもあります。そんな陸貝を対象に、県内66ヶ所の公園や緑地等で調査を実施。親子連れなどが参加し、陸貝を採集しました。



実はミクロ!?陸貝の小さな世界

陸貝は貝殻の大きさが数ミリしかない微小なものから、よく見かける大きなカタツムリまで幅広い種類があります。

2012年に行われた一斉調査では、名古屋市初記録種を含む41種が発見されました。今回は、一体どれだけの陸貝が見つかったのでしょうか。

陸貝が主に棲んでいるのは、落ち葉が堆積して湿った場所や、朽ちた木や石の下など。乾燥した場所は苦手な生きることが難しいとか。また、そのほとんどが数ミリ程度の大きさであって、講師からは「じっくり観察しながら探して」との呼びかけもありました。



調査がスタートすると、参加者らは、腐葉土を洗濯ネットに入れ、トレーの上でふるいにかけて、そこから陸貝を選別。ルーペを使い、目を凝らしながら細長い巻貝や丸い巻貝などを見つけていました。ほかにも、倒木や石をひっくり返したり、落ち葉をかき分けてみたり。種類によっては木の葉の裏にくっついてる陸貝も見つかりました。



湿った場所を好む陸貝

採集した陸貝には、中身がない殻もあったものの、やはり湿っている腐葉土や、朽ちた木とその周りなどに集中。陸貝たちは土の中でひっそりと生息していました。見つけた陸貝は、透明のチャック袋に保管。その後、同定した結果、ナミコギセルやオカチョウジガイ、マメマイマイ、マルシタラなどと判明。ルーペでじっくり観察もしました。

参加者からは「楽しかった」「小さな陸貝ばかりで驚いた」「いろいろな場所にいて行動範囲が広いのかなと思った」などの感想も。普段あまり気にすることのない地面の下には、ミクロの世界が広がっていること、陸貝たち小さな生きもののおかげで、私たちの世界がつくられていることを一斉調査で知ることができました。専門家らは「足元には、どんな生きものがいるか気にかけてみよう」と呼びかけていました。

今回の詳しい調査結果は、この後まとめて報告する予定です。お楽しみに。



名古屋経済大学市邨中学校・高等学校 (科学研究部)

名古屋経済大学市邨中学校・高等学校では、部活動の枠を越え、選択授業や、生徒主体で学びを選んで創る放課後の学び「市邨まなびカフェ」を推進。そのなかで、生物多様性保全活動にも取り組んでいます。

拠点となるのは、校内のビオトープ。これは、「自然と人との共生」という学校方針のもと、SDGs目標15「陸の豊かさを守ろう」をテーマに、生徒と教員が自ら造ったもので、土壌改良や清掃活動などを重ね、林や農園、川、人工池などを創設。昨年度と今年度は、一斉調査の調査地点にもなり、授業の一環として調査活動を実施したり、この調査結果をもとに、分析や議論を通してビオトープの維持・発展につなげたりしています。それにより、生き物に触れる機会が少ない生徒も積極的に参加するなど、自然を大切にしたい意欲が

高まってきました。

最近では、名古屋市立大学生物多様性研究センター協力のもと、生物多様性とDNAについての講義や、名古屋の生物多様性保全活動の歴史を知る機会にも恵まれ、その経験が、生徒たちの活動意欲を大きく後押ししました。また中学生は、豊橋市自然史博物館や金華山リス村へ出向き、自然や生き物に触れる野外活動を実施。今後の活動目標の探求に役立てています。

こうした活動成果は、「なごや生きもの報告会」での発表や同校HPでも発信。全生徒・教員に周知しています。さらに今後は、里山を目指したビオトープづくりや、生徒が気軽に行える活動・イベントの開催を目標としています。



掲示板

令和
5年度

なごや生物多様性保全活動協議会助成金 助成団体募集

なごや生物多様性保全活動協議会では、自然環境保全の“後継者育成を目的とする活動”を支援することで、次世代の担い手づくりやこれからの自然環境保全活動の創出を応援しています。

令和5年1月4日から2月3日まで、令和5年度の助成団体を募集します。助成金交付要綱など、詳しくは協議会のウェブサイトをご覧ください。



協議会ウェブサイト <https://bdnagoya.jp/>

問い合わせ・申し込み先

発行：名古屋市環境局なごや生物多様性センター

住所 〒468-0066 名古屋市天白区元八事五丁目230番地

電話 052-831-8104(平日 8:45~17:30) FAX 052-839-1695

E-mail bdnagoya@kankyokyoku.city.nagoya.lg.jp

なごや生きものライブラリー

なごや生きものライブラリー 検索

<https://ikimono.city.nagoya.jp/>



名古屋市公式ウェブサイト

<https://www.city.nagoya.jp/>

なごや生物多様性保全活動協議会

<https://bdnagoya.jp/>

地下鉄塩釜口駅
2番または3番出口から
徒歩5分

